



せん げん やま

# 浅間山

可児市立東可児中学校  
令和6年5月23日発行

「真似ぶ(まねぶ)から始まる」

教務主任 桑下正之

皆さんは、「学ぶ＝学習する。勉強する。」だと考えていませんか。もちろん間違いではありません。しかし、古語では「学ぶ」は「真似ぶ(まねぶ)」と読み、「まねる」(模倣する)という意味となっているようです。ある心理学者は、以下のように述べていました。



生まれたばかりの赤ちゃんは笑わぬという。赤ちゃんが笑い始めるのは、母親が笑って見せるからである。もちろん、まだ目も耳も働かぬけれども、赤ちゃんは自分の顔をのぞき込むお母さんの気配を感じる。「こんにちは 赤ちゃん。私がママよ。」若い母は、初めてわが分身と対面する。母は、満面の笑みを浮かべている。それを感じて子は笑うのだ。ここに教育の出発がある。母は、笑うことを教えるつもりはなかった。赤ちゃんは、初めて笑うことを学ぶ。赤ちゃんも また、学ぶつもりはなかった。

私には、4人の娘がいます。長女から四女まで、毎日、元気よく過ごしてくれています。三女は、まだ2歳ですが、親がすることや姉がすることを見て真似をし、たくさんのことに挑戦をします。包丁は持ってませんが、台を自分で準備し、キッチンで料理をしようとします。でも、危ないからと言ってそこで簡単に「ダメ！」と言ってしまうことは、親としていけないことなのかもしれないと気づいたのは最近のことです。外に出かければ、嬉しくなって走り出す。そして転ぶ。泣く。でも、また起き上がり、走り出す。少し痛い思いをしても、辛い思いをしても何度も挑戦する我が子の姿に驚かされます。靴もいつからか脱いだ後は、揃えるようになりました。こうしなさいというよりは、他の人の行動を見て学んでいる(真似ている)のだと感じました。といっても、言ってもできない、やらないということも多いですが…。四女は0歳4ヶ月です。やっと首がすわってきました。まだ寝返りもハイハイもできませんが、大きな声で何かを話し、こちらの笑顔に、にっこりと笑顔で返してくれます。これも決して教えたわけではありません。

生徒にこうしてほしい、こう成長してほしいという願いはもっていても、上手くいかないことは多々あります。しかし、無理矢理そうさせるのではなく、生徒と共に考え、創造していくことが大切だと感じます。また、子どもは「モデリング」により学習・成長すると言われてるので、大人の私たちが姿や言葉で示していくことを大切にしていきたいと思います。

先日、私は1年生の学級に給食(2組)と帰りの会(3組)の時間に入る機会がありました。給食当番は、率先して仲間のために動き、準備をし、助け合って配膳をしていました。その姿は無駄がなく、スピーディーでした。仲間の良い姿から学んでいたからこそ、この配膳の姿があるのだと感じました。また、帰りの会では、生徒会の「ほめ合いシャワー」という仲間の良さを見つける活動において、マンドリーさんの班を中心に、頑張り(良さ)をみんなで共有する姿がありました。大変素晴らしい姿だったと感じます。今後、学級や学年全体が仲間の良さに気づき、認め合える集団になったとき、今以上に素晴らしい学級・学年になっていることでしょう。東可児中学校では、行事や日常生活を通して、良い姿を生徒が「真似ぶ(まねぶ)」ことができるように今後も指導していきます。また、そんな学級、学年、学校になるように生徒会、学校が中心となって活動を創造し、教育活動を進めてまいります。

